

科目名	経済学演習2			ナンバリング	RPP461	授業形態	演習
対象学年	3	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	1 単位
代表教員	吉村忠晴	担当教員					

授業の概要	本授業では、問題演習を行うことでミクロ経済学に関する理論についての理解がより深まることを目的とする。授業では、2年次対象の「経済原論」の講義内容を踏まえ、ミクロ経済学分野の基礎理論に関する問題演習を課すとともに、問題の解法についての解説と問題に関係する理論や専門用語に関する補足説明を行う。演習で課す問題は、公務員採用試験(大学卒業程度)の教養試験「社会科学(経済)」の「経済原論」(ミクロ経済学)の範囲を中心に、一部、専門試験の「経済原論」(ミクロ経済学)の範囲を想定している。						
到達目標	1. 「完全競争市場の均衡」に関する演習問題を解くことができる。 2. 「需要の価格弾力性」に関する演習問題を解くことができる。 3. 「完全競争市場均衡とその効率性」に関する演習問題を解くことができる。 4. 「家計行動の理論」に関する演習問題を解くことができる。 5. 「企業行動の理論」に関する演習問題を解くことができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	1. 2年次において、「経済原論」を履修していることが望ましい。 2. 「経済学演習1」を履修していることが望ましい。 3. 公務員採用試験の受験を考えている学生は、履修することが望ましい。 4. 新聞等で常に最新の経済動向と経済統計を把握しておくこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
①需要曲線と供給曲線に関する演習問題を解くことができる。 ②需要の価格弾力性(弧弾力性)の計算に関する演習問題を解くことができる。 ③余剰分析に関する演習問題を解くことができる。 ④予算制約線と無差別曲線に関する演習問題を解くことができる。 ⑤需要の所得弾力性と財の分類に関する演習問題を解くことができる。 ⑥費用の概念と最適生産量に関する演習問題を解くことができる。	①微分を用いて、需要の価格弾力性(点弾力性)の計算に関する演習問題を解くことができる。 ②ワルラス的調整過程、マーシャル的調整過程、クモの巢的調整過程に関する演習問題を解くことができる。 ③課税による厚生損失に関する演習問題を解くことができる。 ④予算制約線のシフトにともなう最適消費点の移動に関する演習問題を解くことができる。 ⑤代替効果と所得効果に関する演習問題を解くことができる。 ⑥損益分岐点と操業停止点に関する演習問題を解くことができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							
確認プリント	○						10%
練習プリント	○	○			○		40%
総合演習	○	○			○		50%
出席			○	○			欠席は、減点になることもある。

課題、評価のフィードバック	1. 「確認プリント」、「練習プリント」については、添削もしくは個別指導を行うか、授業において解答および解法の解説を行う。 2. 「総合演習」については、事前に評価基準を示したうえで、添削もしくは個別指導の行い、学生からの要請があれば、いつでも開示できるように準備しておく。
---------------	--

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	イントロダクション	ミクロ経済学の概要	
	第2回	需要と供給 1	完全競争市場の均衡	
	第3回	需要と供給 2	需要曲線と供給曲線のシフト	
	第4回	需要と供給 3	需要の価格弾力性(弧弾力性)	
	第5回	需要と供給 4	経済学における微分、需要の価格弾力性(点弾力性)	
	第6回	完全競争市場の効率性 1	市場均衡の調整過程と市場均衡の安定性	
	第7回	完全競争市場の効率性 2	経済余剰と資源配分の効率性	
	第8回	完全競争市場の効率性 3	政府の経済活動への介入と厚生損失	
	第9回	家計行動の理論 1	予算制約線と無差別曲線の性質	
	第10回	家計行動の理論 2	無差別曲線の凸性と限界代替率逓減の法則	
	第11回	家計行動の理論 3	最適消費量の決定、予算制約線のシフトによる最適消費点の移動	
	第12回	家計行動の理論 4	需要の所得弾力性と財の分類、代替効果と所得効果	
	第13回	企業行動の理論 1	費用の概念、最適生産量の決定	
	第14回	企業行動の理論 2	損益分岐点と操業停止点	
	第15回	総合演習	單元ごとの練習問題の実施によって明らかになった各自の課題と反省を踏まえ、全範囲にわたる演習問題を実施する。	
	試験	定期試験は実施しない。		
授業の進め方		該当する範囲の「経済原論」の授業内容の確認と補足をスライドと講義プリントにより行ったうえで、確認問題、練習問題の実施および解法のポイントと解答手順の解説を行う。		
授業外学習の指示		授業中に行った確認問題、練習問題の結果から自分の理解度を確認し、理解不足の授業内容について復習をする。「総合演習」に向けての準備を行う。次回の授業の範囲に該当する「経済原論」の授業内容を振り返るとともに、その際に課された練習問題を見直しておく。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	教科書は使用せず、毎回講義プリントを配布する。なお、配布された講義プリントは、クリアファイル等で整理・保存し、毎回の授業に持参すること。また、「経済原論」で使用した講義プリントも持参すること。
参考書	特になし。
参考URLなど	特になし。
その他	

経済学演習2 ルーブリック

評価規準 項目／観点		レベル高 ← 評価基準 → レベル低		
		例：模範的、レベル3	例：標準、合格、レベル2	例：要改善、不合格、レベル1
1	知識・理解	ミクロ経済学の理論の導出プロセスを理解している。	ミクロ経済学の専門用語や理論を正しく理解している。	ミクロ経済学の専門用語を正しく理解していない。
2	思考・判断 (専門的能力)	ミクロ経済学の理論についての知識を援用して、発展レベルの演習問題を解くことができる。	ミクロ経済学の理論についての知識を援用して、基本レベルの演習問題を解くことができる。	ミクロ経済学の理論についての知識を援用できず、基本レベルの演習問題を解くことができない。
3	技能・表現 (汎用的技能)	ミクロ経済学の理論を踏まえた経済政策を理解している。	ミクロ経済学の理論を現実の経済問題に関連づけて理解している。	ミクロ経済学の理論を現実の経済問題と関連づけて理解していない。
4				
5				
6				
7				